

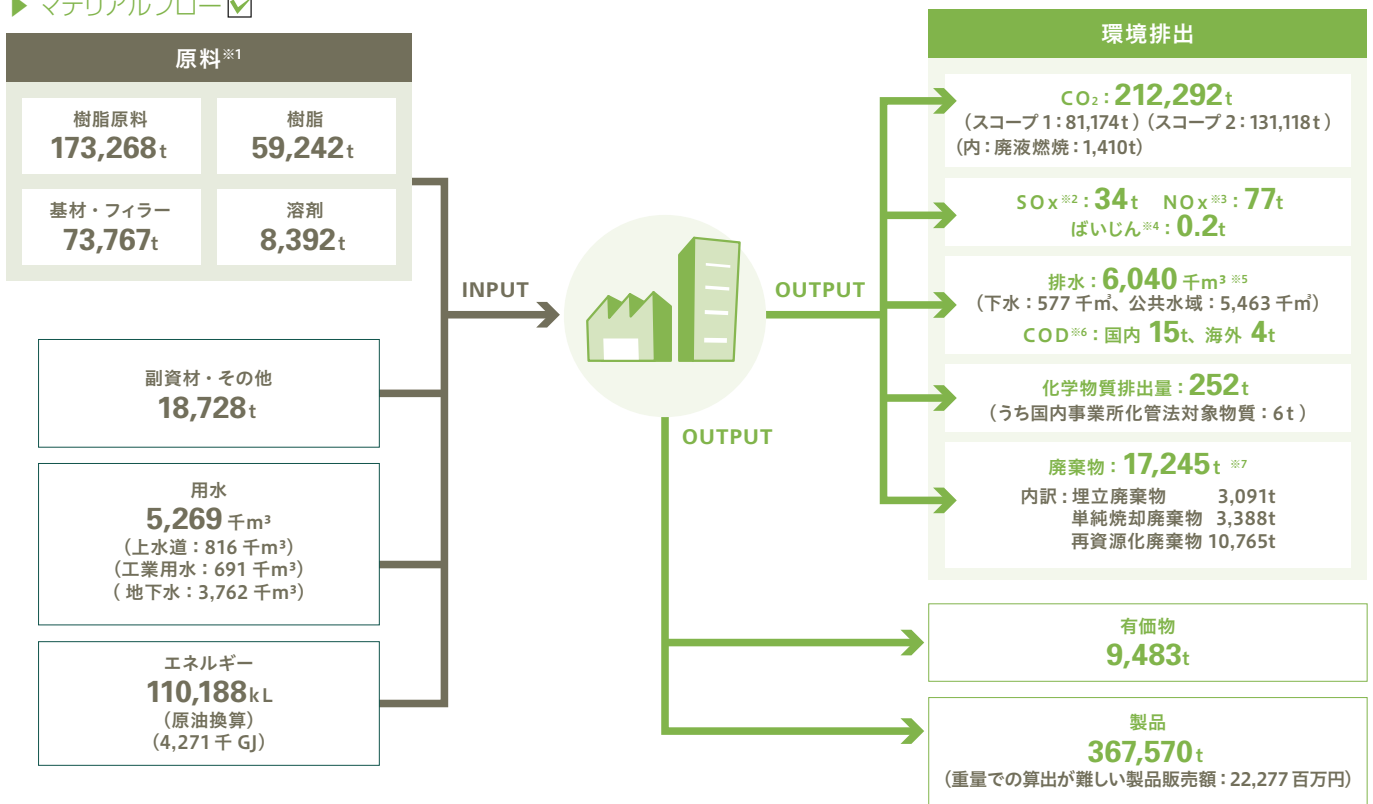
# マテリアルフローと環境対策投資



原料、エネルギー等のインプットおよび製品、環境排出物等のアウトプットを示しています。

当社グループでは、環境負荷低減のため排出物の削減を図るとともに、省資源の見地から、投入する原料、エネルギーおよび水の削減を推進しています。2019年度は、事業所の削減努力により、CO<sub>2</sub>排出量、水使用量ともに昨年度比で減少しました。また、別の要因として、年度終盤の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大による経済活動の停滞の影響を受け、原材料の投入量、製品の販売量等、多くの項目が減少しました。一方で、再資源化廃棄物は増加していますが、これは、中国・東南アジア圏での廃プラスチック輸入規制の影響により、廃プラスチックが、従来の有価物としての取引から廃棄物として処理される割合が増えたことに起因しています。

## ▶ マテリアルフロー



※1 使用原材料に占める再生可能原材料比率は現時点では少量ですが、利用率向上への取り組みは継続しています。

※2、3、4、6 P.108用語集参照。SO<sub>x</sub>、NO<sub>x</sub>、ばいじんは排ガスの測定結果および燃料使用量等から自社で定めた計算方法により算定しています。ばいじんに関しては、海外での測定基準が異なるため、現在のところ国内データのための集計です。CODは測定濃度と排水量から算定しています。海外のCODに関しては、排水中のCOD測定を実施している事業所を対象としました。また、測定に用いる酸化剤の種類（主に重クロム酸カリウム）が異なるため別表記としました。

※5 排水量の把握は、下水への排水は使用量の明細より算出しています。公共水域の排水は、流量計を設置している事業所はその測定値より、設置していない事業所は水使用量より、算出しています。

※7 廃棄物量中の危険廃棄物の数量は8,226tです（各国定義による）。なお危険廃棄物の数量は、保証対象ではありません。

※ 製品出荷量および製品販売額は、保証対象ではありません。

## 環境対策投資

当社グループでは2000年度より国内グループ会社の環境保全に係わる投資額を集計しています。

2019年度は合計では、2.8億円の投資を実施しました。2018年度同様、電源供給の効率化等の省エネルギー対策を継続実施しましたが、大規模な案件が一段落したため、投資額としては2018年度より減少しました。

## ▶ 2019年度の環境対策投資額

分類	投資額（百万円）
環境への排出抑制	33
省エネルギー	244
廃棄物処理、削減・リサイクル他	4
合計	281

※ 集計対象期間および対象事業所は、P.3記載の国内事業所です。